

アミロイドβの蓄積

新認知症薬シカネマブは、年内にも、患者さんに使えるようになる。

薬価も、保険適応の有無も、今はまだなにも分からない。が、間違いなく言えることは、薬を使えるのはアミロイドβの蓄積が認められるアルツハイマー病の軽症の人か、その予備軍の軽度認知障害（MCI）の患者さんに限られるということだ。

アルツハイマー病の原因は、アミロイドβの蓄積に由来とされている。シカネマブは、そのアミロイドβを除去するための薬である。だから、アミロイドβのない人に使っても意味がない。また、蓄積が進んで重症になった認知症の人には効果がない。

認知症の程度が軽いかMCIのレベルかなどは、診察こもの忘れのテストをすれば簡単に分かる。だが、アミロイドβの蓄積があるのかどうかを知るのは容易ではない。今のところ、アミロイドβの蓄積を確認する方法は、アミロイドPET（陽電子放射断層撮影）か脳脊髄液検査である。脳脊髄液検査は、腰骨の間に針を刺して、脳脊髄液を採取するものだ。ある程度の技術が必要で、イヤな合併症が出ることもあ

る。とつてい、新米の医者には任せられない。

その点、アミロイドPETは、患者さんの肉体的な負担もなぐ、一般の人が見ても、アミロイドβの蓄積程度が簡単に分かる。しかし、欠点もある。PET検査ができる施設が、極端に少ないことだ。しかも、検査に保険が使えなければ、私費だ。20万円以上は必要になるらしい。

ため息が漏れそうだが、朗報がある。あと2年ほどすれば、血液検査でアミロイドβの蓄積状態を把握できるようになるかもしれない。対象となる患者さんが増えれば、薬価も下がるかもしれない。そのうち、シカネマブを認知症の予防に使える時がくるかもしれない。

（石黒修三 しいへろクリニック・脳神経

外科医・9/12北國新聞掲載）